

第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会印象記

第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会が、2017年10月28日（土）～29日（日）に大阪市の大阪国際会議場にて開催されました。これまで春季のみに行われていた学術集会に加え、2017年度より秋季学術集会が開催されることとなりました。当日は台風22号が関西地方を通過中で、交通機関の乱れが心配される中でしたが、全国各地から参加者が集まりました。



私は、2日目の義肢装具セッションで、長期大腿義足使用者ががん発症に伴い義足調整を要した2症例について症例報告をさせていただきました。この症例を通し、がん発症後は進行度、治療、生命予後、本人のニーズを考慮したうえで義足調整を行うことの重要性を学びました。今年度よりリハビリテーション科医として診療に携わる中で、初めて義足調整を経験した症例となりました。症例発表後の質疑応答では、様々な方からご指摘やご助言を頂き、理解を深めることができました。

また、リハビリテーション科女性専門医ネットワーク（RJN）のセミナーにも参加させて頂きました。個人的には医学生時代から参加させて頂いておりますが、今回のセミナーでは、年代や経験の異なる3人の先生方から医学生、研修医、若手医師に向けて、リハビリテーション科医師の実際についてご講演を頂きました。ご経歴、若手医師時代に苦労されたこと、現在の職場環境、仕事と家庭を両立される中で工夫されていること、心構えなど、各々の経験談を踏まえながらお話頂きました。セミナー終了後も全国の様々な立場でリハビリテーション科医としてご活躍されている先生方に直接お話を伺うことができ、自分の今後について考える大変有意義な時間となりました。



今回学会に参加し、まだまだ学ぶことが多いことを実感し、先輩医師との交流を通じて臨床へのモチベーションも高まりました。今後も意欲的にこのような学会活動に取り組んで参りたいと思います。